

馬場 のぼる (ばば のぼる)

1、プロフィール

戦後手塚治虫・福井英一と「児童漫画界の3羽ガラス」と呼ばれた日本を代表する漫画家・絵本作家。帽子とヒゲの飄飄とした風貌でクイズ番組やドラマでも活躍した。ユーモア、ナンセンスに彩られ独特の温もりある作風は『11 ぴきのねこ』シリーズをはじめ今も幅広い層の支持を受ける。

<生没>

1927(昭和2)年 10 月 18 日～2001(平成 13)年4月7日

<代表作>

「ブウタン」(第1回小学館漫画賞)絵本『きつね森の山男』『11 ぴきのねこ』(産経児童出版文化賞)『11 ぴきのねこマラソン大会』(ポローニャ国際児童図書展エルバ大賞)「バクさん」『11 ぴきのねことあほうどり』(第 19 回文藝春秋漫画賞)『ぶたためききつねねこ』(厚生省児童福祉文化奨励賞)デビュー作『ポストくん』遺作『ぶどう畑のアオさん』

<青森との関わり>

青森県三戸郡三戸町に誕生。三戸町立三戸尋常高等小学校卒業。終戦後三戸に帰郷、児童文学者白木茂と知り合い、漫画家への道が開ける。第 17 回デーリー東北賞・第 53 回東奥賞特別賞受賞。三戸町名誉市民。

2、作家解説

1927年10月18日、青森県三戸郡三戸町、父民衛、母きくの次男(3人姉弟の末子)として誕生。本名登。

三戸町立三戸尋常高等小学校、卒業時成績優秀として「三戸町長賞」を授与される。

その後岩手県福岡中学校に列車通学し、海軍飛行予科練習生 14 期生として土浦海軍航空隊に入隊。終戦後は三戸に帰郷、リンゴ行商人、開墾農民、獣医

手伝い、大工見習い、小学校の代用教員、ポスター描きなど職を転々とし、この頃から独学で漫画の勉強を始める。三戸町に疎開していた児童文学者で翻訳家の白木茂と知り合い、白木の紹介で大阪の出版社から処女作赤本漫画『怪盗カッポレ団』を出版。

1949年、白木茂と上京、1950年『ポストくん』で漫画家デビュー。

1951年「東京児童漫画会」(児漫長屋)発足時に入会、手塚治虫と出会い生涯の友となる。後に手塚治の葬儀では友人代表として弔辞を読む。

1955年「ブウタン」で第1回小学館漫画賞受賞。1958年「漫画集団」に入団。

1963年、絵本『きつね森の山男』で第11回産経児童出版文化賞を受賞。

1967年連載開始の『11ぴきのねこ』は、翌年第15回産経児童出版文化賞を受賞、その後シリーズ化され1996年まで29年間で6冊を刊行、ロングセラー絵本となる。

1981年青森県褒章受章。

1985年『絵巻絵本 11ぴきのねこマラソン大会』でポローニャ国際児童図書展エルバ大賞を受賞。

1970年より「日本経済新聞」に「バクさん」を14年間連載し、「バクさん』『11ぴきのねことあほうどり』で第19回文藝春秋漫画賞を受賞。

1979年『ぶたたぬききつねねこ』で厚生省児童福祉文化奨励賞を受賞。

1993年第22回日本漫画家許可衣装文部大臣賞、1989年デーリー東北賞、1995年紫綬褒章、1997年第18回読売国際漫画大賞・選考委員特別賞、2000年第53回東奥賞特別賞。

2001年4月7日、胃ガンのため、東京練馬区の自宅で死去。享年73歳。5月、遺作となった『ぶどう畑のアオさん』出版。勲四等旭日小綬章受章。1998年に三戸町名誉町民となり、2007年には同町に馬場のぼるの世界を紹介する「ほのぼの館」がオープンした。